

新風

千葉県の医療情報 BREATHE NEW LIFE

似ているようで正反対の甲状腺疾患 橋本病とバセドウ病



千葉県医師会
いしかわ なおふみ
石川直文 医師

全身の働きを活性化させる甲状腺ホルモンをつくって血液中に分泌し、新陳代謝を促すのが甲状腺の役割です。

甲状腺ホルモンは多過ぎてても少な過ぎても問題が起るため、通常は、個人にとって適切な量が分泌されるよう調整されています。

この甲状腺に異常が起る代表的な病気が橋本病とバセドウ病で、女性に多いのが特徴です。

どちらも、本来ならば身体に入り込んだ自己の成分以外のものなどに対して起るべき免疫反応が、自分の甲状腺に反応してしまっただけの自己免疫疾患です。

さらに、共通する典型的な症状として、首の腫れ（実際には首ではなく、甲状腺が腫れる）があり、それに自分で気づいたり、人から指摘されたりして受診する患者さんが多くいらっしゃいます。

橋本病とバセドウ病はどちらも甲状腺の病気で、首の腫れから発覚することが多いため似た病気と思われるがちです。し

かし実は共通する症状は首の腫れのみで、あとは正反対といえます。

橋本病が甲状腺の機能が低下する病気であるのに対し、バセドウ病は甲状腺の機能が異常なまでに活発になってしまう病気なのです。

▼代謝が落ちて元気がなくなる病気 「橋本病」

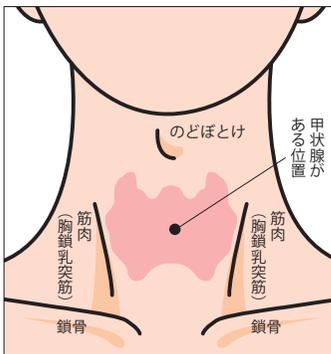
橋本病は、甲状腺に慢性の炎症が起る病気で、慢性甲状腺炎とも呼ばれます。男女比では圧倒的に女性に多くみられます。

意外かもしれませんが、橋本病の患者さんの多くは、発症しても甲状腺の機能低下は認められず、首の腫れ以外の症状は特にないので、治療の必要さえありません。（将来、甲状腺機能が低下することはあり得るため、定期的な検査は必要です）

無症状のため、自分が橋本病を発症していることに気づかずにいる方は非常に多

甲状腺の位置とかたち

（例：女性の場合）



※男女で位置が異なり、女性の甲状腺は、男性よりやや高い位置にある。

▼甲状腺とその働き

甲状腺は、体の元気の源ともいえるホルモンを分泌している非常に重要な臓器です。しかし、他の臓器に比べてなじみの薄い臓器であるため、異常が見逃されがちです。今回は女性に多く認められる甲状腺疾患・橋本病とバセドウ病について、石川直文医師にお話を伺いました。

甲状腺は、首ののどぼとけの下にあり、気管を抱き込むようにはりついている臓器です。

く、実に、成人女性の10人に1人はこの病気をもっていると言われるほど患者数の多い病気です。

甲状腺の機能が低下し、体を活性化するホルモンが不足した場合には、元気がなくなる、物忘れが激しくなる、皮膚が乾燥したり毛髪が薄くなったたりして実年齢より老けてみえるなど、さまざまな症状があらわれます。

また、代謝が悪いため、あまり食べないのに体重が増え、手、足、顔などを含め体が全体的にむくみ、そのむくみがとれないという点も特徴的です。

発症年齢は40代から50代が多く、更年期障害やうつ病と間違われることも少なくありません。

治療法は、足りなくなった分のホルモンを、甲状腺ホルモン剤を飲んで補うというシンプルで負担の少ない方法になります。

▼代謝が活発になり過ぎて疲れる病気 「バセドウ病」

バセドウ病は、甲状腺の機能が異常に活発になる病気で、20〜30代の若い女性に多くみられます。

ホルモンが過剰に分泌され続け、全身の代謝が異常に高まる結果、寝ている間も走り続けているような状態となるため、疲労感が強くなり、脈が速く、汗をかきやすくなったりします。ほかに、体重が減

少、精神的にもイライラし、心身ともに興奮傾向となり、手指のふるえなどが起こることもあります。

また、バセドウ病というと、眼球が出てくる病気と思われるのですが、この症状を含め眼の症状が現れる方は、半数以下です。

治療は、甲状腺機能を正常化させ、甲状腺ホルモンが過剰に作られないようにする治療が行われます。

内服薬治療、アイソトープ治療（放射性ヨードのカプセルを内服し、放射線の作用で甲状腺の腫れを縮小させ、過剰に分泌されているホルモン量を減少させる）、手術の3種類がありますが、症状の程度、年齢ご本人の希望などにより、最適な方法を選択します。

▼首をさわわり、 腫れを見逃さないことが重要

橋本病もバセドウ病も、診察の基本は、問診が重要な点はほかの病気と同じですが、やはり要は甲状腺の触診です。

他の病気と間違われたり、見逃された

橋本病とバセドウ病の主な症状

橋本病 ↓ 甲状腺機能低下症	バセドウ病 ↓ 甲状腺機能亢進症
<small>※ 甲状腺ホルモンの不足が著しい場合に出る症状</small> 体のむくみ 気力の低下 動作が鈍くなる 食べないわりに体重が増える 皮膚が乾燥する 毛髪が少なくなる 声がかすれる 寒がりになる 眠くなる 物忘れがひどくなる こむらがり その他（便秘 貧血 月経過多）	頻脈 動悸、息切れ 指先のふるえ 汗かき 暑がり 疲れやすい やせる 微熱 イライラ 下痢 月経不順 その他

りすることの多いこれらの病気を早期発見できるよう、私は内科医の皆さんに、まずは首をさわって甲状腺の腫れがないかどうか確認してもらえよう願っています。

自己免疫疾患であるこの二つの病気の原因は、まだ不明とされていますが、甲状腺ホルモンのコントロールさえできれば、健康な方と全く変わらない生活のできる病気です。

いたずらに怖がる必要はありませんが、心あたりの症状がある際は、まずは受診し、甲状腺ホルモン濃度を測る血液検査等、詳しい検査を受けておくとい良いでしょう。